

2019年
6月17日
月曜日

加藤 雅俊 教授（企業経済学）

経済における「エコシステム」を考える

エコシステムとは、一定の場所にすむ全生物とその環境を、物質循環とエネルギーの流れに着目して一つのまとまりとして捉えたものを意味しています。経済成長が鈍化し、人口減少と少子高齢化に直面する社会において、持続可能なエコシステムが求められています。

筆者の研究テーマの一つであるイノベーション研究の分野においては、「地域のイノベーションエコシステム」と呼ばれる、一定の地域で活動する企業、大学、研究機関とそれを取り巻くイノベーション活動の環境を、技術などの知識の流れに着目して一つのまとまりとしてとらえる研究フレームワークが注目されています。また、筆者が分析対象としているスタートアップ企業に関するテーマが中心となるアントレプレナーシップ研究の分野においては、「創業のエコシステム」と呼ばれる

研究フレームワークが提案されてきました。このフレームワークは、一定の地域内での「生産的アントレプレナーシップ」を可能にするような創業活動を取り巻く環境について、相互依存的な主体・要素の集合体としてとらえるものです。ここでは、後者について簡単に紹介します。

創業とは新しい企業（ビジネス）の誕生を意味します。新しい企業が登場することは、市場での競争を活発化させ、効率性を高める上で重要な役割を果たします。経済成長が低迷する中、企業の誕生を通じた経済活性化に期待が寄せられています。新しい企業の登場によって、類似した製品やサービスを提供する企業にとっては競争相手が増えます。競争の結果として価格の低下を招くかもしれませんが、新しい企業は、既存の製品やサービスに対抗するために、新規性をもつ製品やサービスを

導入する必要があります。他方で、既存企業は、新しい企業との競争に打ち勝つために、イノベーション創出へのインセンティブが増す可能性があります。企業の誕生を通して新陳代謝がうまく機能し、新たなアイデアや知識の創出の可能性を高め、市場の効率性が増すことが期待されています。

しかし、誕生した企業の多くは、創業後まもなく市場から消えることが知られています。スタートアップ企業の中で、競争に打ち勝つて、イノベーションや成長を実現するのはほんの一握りであり、経済にインパクトを与えるには様々なハードルが立ちほだかります。イノベーション、生産性成長、雇用創出の重要な源泉となる、ユニコーン企業に代表されるような「高成長スタートアップ」を生み出すシステムを創ることが重要と考えられています。このよ

うなシステムこそが創業のエコシステムです。

創業活動の水準は、国の制度的要素が深く関わっています。創業活動の活性化のためには、人々の創業のインセンティブを高めるような環境をいかに整えるかという点が鍵を握ります。解雇制度などの規制が強い国ほど企業の設立やその成長が低い傾向があります。創業活動を活性化させるためには、倒産手続きの煩雑さや資金調達のしやすい金融システムの整備も重要な要素と考えられます。

このテーマに関心を持たれた方は、筆者が日本経済新聞（2020年3月末―4月上旬頃）「やさしい経済学」へ寄稿した連載記事（計10回）「スタートアップと経済活性化」をぜひご覧ください。